

## 【経営学部】IBP-A実施報告

経営学部では、この夏もアメリカの2つの都市で\*IBP(International Business Program)を実施し、①カリフォルニア州-サンノゼ州立大学(SJSU)プログラムに22名、②オレゴン州-ポートランド州立大学(PSU)プログラムに19名、計41名の経営学部生が参加しました。約4週間の研修中、参加者はホームステイをしながら実習先大学で語学研修を受け、また、ビジネスに特化した授業やプレゼン力強化の授業、現地の企業訪問を行いました。

\*IBPは、海外短期留学を行う実習科目です。2002年度から課外の海外語学研修としてスタートし、これまでに500名を超える経営学部生が参加しています。2010年度からはIBPを正規の科目として新たに設置しており、この科目を履修し修了すると2単位修得できます。(自由履修科目として卒業に必要な単位数に参入、履修上限単位数からは除外します)。毎年、夏休みと春休みを利用して年2回実施しています。

### SJSU参加者集合写真



### サンノゼプログラム引率教員より

サンノゼは、シリコンバレーという先端技術研究開発中心の都とよばれています。有名企業のHP、アップル、グーグル、フェイスブックなどはもちろん、これからの新インターネットベンチャーの発祥の地であり、経営学部の学生にとっては最高の目的地です。今回は、サンノゼプログラムの第5回目で、これまでで最高の22人が参加しました。学生と成田空港で待ち合わせ、最初の一週間を共に過ごしました。授業は、ビジネスイディオム(熟語)、シリコンバレーの歴史、英語プレゼンテーションなどの興味深い内容ばかりでした。特に楽しいそうだった授業は、鏡や輪ゴムを使っでの発音練習でした。各国の技術者が集まる地域のためホームステイ先の家族も国際的でした。

サンノゼ滞在中、(今回初めて)現地の学生と日本博物館を訪れました。そこでは、日系三世の方から、子供のころの戦時中の生活を日本語と英語を織り交ぜて話して頂きました。後日、学生たちは、シリコンバレーの会社やスタンフォード大学、技術博物館なども訪ねました。また、週末は、近くのサンフランシスコ以外に、希望者はロサンゼルス(ディズニーランド、ハリウッド等)及びヨセミテ国立公園を訪れました。

一ヶ月間は英語を伸ばす期間としては短い時間ですが、参加した一年生や、海外初めての学生から「少し英語に自信が着いた」や「英会話の重要性を感じた」のコメントを頂きました。また、「とても楽しかった」、「ホームステイ先の家族はすごく優しくかった」、「また行きたい!」という意見も多くありました。事前学習の教室内の緊張感もしっかり溶け、先日の事後学習では楽しくサンノゼでの経験について英語で語り合いました。これからも、英語を活発に使ってほしいものです。

IBPサンノゼプログラム担当:経営学部准教授キアナン・パトリック

## SJSU参加者写真



一日目: SJSUキャンパス見学



コンピューター室で宿題



路面電車にのって



日本博物館で日系三世の戦時中の話を聞く

サンノゼプログラム研修期間: 2013年8月5日~9月2日

## ポートランドプログラム引率教員より

「ポートランドに大切な友人ができました。たくさんの国からの人と語り合うことができたのは最高の経験です。IBPプログラムに参加し、このような素晴らしい友人を作ることができたことは私の誇りです。」(学生感想)

「ポートランドでのホームステイ体験を通して、英語力の不足を再認識し、これから一生懸命勉強しようと思いました。」(学生感想)

「すでに20歳になったので、私は現実に直面し、夢を手放さないといけないと思っていました。しかし、私のホストマザーが、『あなたはまだ20歳なのだから選択肢はたくさんある。』、と言ってくれました。これが私の考えを変えました。今ではやりたいことをしようと思っています。」(学生感想)

オレゴン州ポートランドでのIBP-Aに参加した19名の経営学部生は、日本の他の6つの大学からの60名以上の学生と合流し、語学研修、ホームステイ、フィールドトリップ、そして自由時間など充実の4週間を過ごしました。受入大学担当ジェフ・バッファロー氏、9名の教師と7名のスタッフによりコーディネートされたAmerica Plus プログラムは、英会話とアメリカビジネスの授業中心に構成されています。英会話の授業はアメリカンスタイルの参加型であり、ビジネスクラスは企業家精神に焦点を当て、学生はいくつかのチームに分かれ事業の立ち上げ・開発についての提案をまとめました。

ポートランド近郊にある、インテルの大規模な研究開発および製造施設見学と巨大なナイキの施設見学は、大手米系グローバル企業で働く専門家の労働条件を覗き見るよい機会となりました。私は今回、学生と共にインテル見学に参加し、学生のために2時間の時間を割き仕事について説明したり、学生からの質問に答えてくれた研究者を含む4人のエンジニアリングの従業員に感銘を受けました。一方、Kaleという人気のレストランの所有者Yoshino Makoto氏とのランチミーティングでは、学生は起業家のケーススタディを行いました。

課外活動では、America Plusプログラムは、学生はシアトル観光やマリナーズ試合観戦、オレゴン海岸、コロンビア川でのラフティングなど、太平洋北西部の自然の美しさを堪能しました。

しかし、IBPの最大の利点は、アメリカの家庭でのホームステイでの経験です。学生はアメリカ生活の多様性とエネルギーに最初は苦労しますが、その体験を通して次第にコミュニケーションスキルを身に付け、自信を持ち、新しい文化を理解し尊重するようになります。ホストファミリーとの生活を通じ、学生はポートランドの様々な側面・・・進歩的な文化・行政改革・、グリーンテクノロジーで有名な町・・・を探ります。

ますますグローバル化する明治大学経営学部の、IBPの価値の鍵となる指標は、学生の「英語力を伸ばしたい」という気持ちと、留学への意欲を見せる学生の急増にあると考えます。

IBPポートランドプログラム担当 : 経営学部特任講師、マット・ノイズ

「海外留学したいという私の夢はポートランド滞在中にさらに強くなりました。自らの快適ゾーンから飛び出し、手に入れたものを自らの手で勝ち取ることの重要性を学びました。」(学生感想)

# PSU参加者写真①

ポートランドプログラム研修期間：2013年8月16日～9月11日



## PSU参加者写真②



## IBP-B(春) 募 集 説 明 会

■第1回:日時:10月2日(水) 場所:和泉第一校舎4F 406教室  
時間:12:15~12:55

■第2回:日時:10月9日(水) 場所:和泉第一校舎地下1F 007教室  
時間:18:00~19:30

応募詳細はこちら⇒ [http://www.meiji.ac.jp/keiei/exchange/ibp/jp\\_apply.html](http://www.meiji.ac.jp/keiei/exchange/ibp/jp_apply.html)

問合せ:経営学部事務室